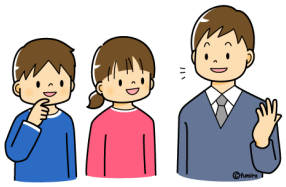
とうえい

令和３年７月２日
東栄小学校
学校だより第４号

笑顔になれる言葉遣い！



梅雨の合間に時折見える真っ白な入道雲と青空の美しいコントラストは、この時期ならではの楽しみの一つでもあります。

さて、子どもたち同士の会話を聞いていて優しい気持ちになれた時があります。「ありがとう」「ごめんね」「また遊ぼうね」「お先にどうぞ」などの言葉遣いは、相手や周りの人たちが聞いていてもとても気持ちのよいものです。優しい言葉は人を助けたり、困った時に手を差し伸べたりしてくれます。逆に驚くことに「きしょい」「あおる」「うっせえ」など、相手を傷付けたり、不快にさせたりする乱暴な言葉遣いが、普段の会話の中で使われている状況を見聞きすることがあります。小学生の時期は言葉に限らず、新しいことをどんどん覚えていく時期であり、新しい人や出来事との出会いの中で様々な言葉に触れ、新たな知識を習得していることの証拠でもあります。

子どもたちが乱暴な言葉遣いをする背景には、「新しい言葉を使うのが楽しい」「みんなも使っているから」「身近に使われている言葉なので、悪い言葉という認識がない」など、いろいろな理由があることを子どもたちに聞いてみて分かりました。覚えたての言葉を使うことや、その言葉に対して周りの人たちが大きく反応することは、子どもたちにとって純粋に楽しいことかもしれませんが、一方で乱暴な言葉を受け、大きなショックを受ける子どもたちもいます。

本来、言葉は自分の気持ちを伝えるとともに、人と人をつなぐ大切なものです。適切な言葉遣いは長い時間をかけて、家庭生活や学校生活、社会生活の中での人と人とのかかわり合いで培われていくものだと思います。そして、発達段階や状況に応じて、丁寧語や尊敬語を使えるようになることが求められます。一人一人が言葉遣いに目を向けながら行動していけば、皆さんを取り巻く多くの人たちが元気になり、笑顔が増えてくると思います。まずは、子どもたちが乱暴な言葉遣いをした時には、私たち大人が「まあいいか・・・」と放置しておくのではなく、きちんと正面から向き合うことが大切だと思います。（自戒を込めて・・・）

～創立７０周年今昔物語その３～

昭和４０年頃、学校周辺の道路のそうじをしている様子です。現在のようにアスファルトで舗装されていませんでした。一生懸命そうじをする姿は、今も昔も気持ちのよいものですね。

（校長　井田　寿）